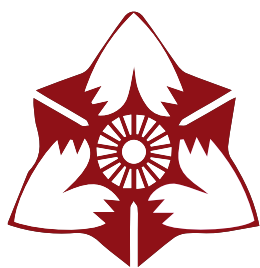


明德義塾中高等学校・鵬翔流吟友会

明鵬吟詠興隆会

会報第6号 2025年1月



2024年第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会

演技を終えて挨拶

ご挨拶

鵬翔流吟友会流 会長 梶田鵬翔

新年明けましておめでとうございます。

コロナ感染症に続き、今はインフルエンザの大流行で、周りにも風邪ひきの方が数名いらっしゃいます。

さて、今年は十二支でいうと巳年、巳つまり蛇は、脱皮して大きくなっていくことから、復活と再生を意味し、再生や変化を繰り返しながら、柔軟に発展していく年であるとされていますが、長い世界の歴史の中で、2025年はいったいどんな年になるのか、いろんな意味においても大きな節目の年になることでしょう。多くの期待と僅かばかりの不安は否めませんが、何よりも世界中の人達が平和で、幸せでありますようにと、心から祈っています。

明德義塾中学高等学校の生徒達も、国境を越えて同じ学び舎の中で、仲良く勉学に勤しみ、各々、国際社会の中で大いに活躍される素晴らしい人材となって、未来に大輪の花を咲かせて、頂きたいと思っております。

明德義塾の素晴らしい人間教育「徳育・体育・知育」の建学の精神こそが、これからの教育に何よりも不可欠であるという思いを更に強く深くしています。

約10年前、大野正夫高知大学名誉教授によって、この明德義塾中学高等学校に、ご縁を頂いたことをとても光栄に思っております。これからの時代を担う若き学生さん達との交流は、私達にとっても、沢山の事を学ばせて頂ける機会となり、躍動感に溢れています。

さて、今年の夏は香川県に於いて、第49回全国高校総合文化祭が行われます。初めて、女子生徒だけのグループでどんな舞台発表となるのか、とても楽しみにしています。また、黒竹先生を初め、日本クラブの担当の先生方には何かとお世話様になります。宜しく願いいたします。総文祭に向かって頑張りましょう！！

また、我が鵬翔流吟友会においては、創立15年の節目を迎える年でもあります。秋にはその祝賀会が出来ればと思っております。今後も、多くの方々のご支援、ご協力を頂けますよう、私も身を引き締め、精進して参りたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

明德義塾留学諸生吟詠

大野正翔（正夫）
上平聲四支韻起句踏み落し

門人麗澤學園下

門人 麗澤す學園の下

同好有朋研詠詞

同好 朋有り 詠詞を研く

活發聲音清氣滿

活發な聲音 清氣に滿つ

慇懃壇上現風姿

慇懃 壇上に風姿を現す

通釈

明德義塾高校に海外の留学生が友と励ましあい
学園で学問や修得に努めている。吟詠を好む
友が集まり、吟詠を磨く。
生き生きした美声が響きわたる。発表の舞台に
落ちついて立ち、心こもった吟詠を演じた。

鵬翔流吟友会：風雅を楽しむ春の集い

2024年4月14日に鵬翔流吟友会の風雅を楽しむ春の集いが、高知市南部健康福祉センターで開催された。昨年より吟詠を稽古していた生徒達の多くが卒業し、新入部員とともに、昨年秋からの短い練習期間ではあった。彼らは、下記に「細井平洲作：親を夢む」を十分に吟詠した。



舞台に立つ小林 稜君



昨年9月より、メキシコから日本語研修留学で来日し、日本クラブに入部した。父親が日本人で大学の教員、母親がヨーロッパ系メキシコ人である。

家では日本語を話しているが、学校ではスペイン語である。日本語をしっかりと勉強するために、5月まで短期留学し、短い詩吟稽古期間ではあったが、ラテン的雰囲気と日本的なゆとりがあり、いつも笑顔で熱心に吟詠稽古に励んでいた。舞台での吟詠は、長く思い出に残るであろう。

親を夢む 細井平洲
芳草萋萋として 日日新たなり
人を動かして帰思 春に勝えず
郷関此処を去る 三千里
昨夢高堂 老親に謁す
通釈
芳(かんぼ)しい草が勢いよく伸び一日一日
成長してゆく様子は、人の心を動かし、
家に帰りたい気持ちが起こって、春の物思いに
耐えられず、居ても立つてもいられない。
郷里は此処から遥かに遠く、帰る事もできない。
昨夜夢で実家の年老いた両親にお目にかかつて
元気な姿を見ることができ、嬉しいことだった。

全国高等学校総合文化祭に向けて詩吟・詩舞の稽古

総文祭には、6回の連続参加であるが、今回は詩吟と詩舞の構成吟詠を行った。詩吟稽古に励んでいた生徒達から、男子生徒1名、女子生徒は新入部員を含めて5名が、5月より心流虎嘯館の田中靈風先生とその門下の方々の指導で吟詠を、8月の大会に向けて、5類コロナ禍期間のなかで、特訓が行われた。



大日本水心流虎嘯館の田中靈風先生より詩舞の指導



寄本光希先生もナレーションの指導



男子生徒は吟詠の練習

九月より女子生徒の吟詠稽古が始まる



2年生の女子生徒による吟詠稽古

総文祭が終わり、高知県総合文化祭と来年の香川総文祭ブレ大会に向けて、2年生だけで、梶田鵬翔先生と中西淑子先生の指導の吟詠稽古が始まった。

まず吟題「富士山」の詩の内容を黒板で説明して、緊張した雰囲気での吟詠稽古であった。

清流の国ぎふ総文2024



第48回全国高等学校総合文化祭 吟詠剣詩舞部門は、会場が、ココロかさなるCCNセンター(瑞穂市総合センター)で、令和6年8月2日(金)午前9時より午後5時までのプログラムで行われた。

参加県は22県であり、高知県から明德義塾高校から、11名の生徒による演技が行われた。指導者は、詩吟は鵬翔流吟友会会長梶田鵬翔先生と詩舞は大日本水心流虎嘯館の田中靈凰先生であった。5名の生徒(女子4名、男子1名)による詩舞と吟詠2名による詩吟演舞を行った。課題は「親を夢む」であった。続いて男子生徒5名による「桂林荘雑詠書生に示す」の合吟が行われた。ロゴマークは詩吟・詩舞部門である。



舞台演技が終わり、生徒と先生方との記念撮影

岐阜高等学校総合文化祭を終えて

干 浩洋 ウ コウヨウ (高3)



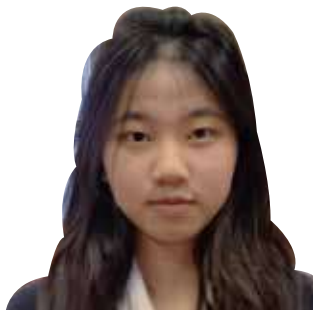
学校を代表して今回の文化大会に参加できて光栄です。前回の試合で自分の不足に気づいてから、私はずっと自分の朗読の欠点を改めようと努力してきました。例えば、声が大きくない、表情に自信が足りないなど、今回の試合で後悔を補い、最も完璧な姿勢で先生と観客に向き合い、結果から、私は最善を尽くしたし、自分の表現にも満足しています。試合の三日前、私は突然喉の痛みを感じました。リハーサルでは実力が全く発揮できませんでした。本番では喉の痛みはありませんでした。先生の特別な

世話のおかげで、私は試合前に喉を良くすることができました。私は一年のトレーニングの成果を皆さんと一緒に観客に捧げました。また、多くの拍手と先生たちの歓声も受けました。先生の丁寧な指導がなければ、監督とクラスメートの気遣いとのおかげで、私は今回の試合は満足して終わりました。皆さん、ありがとうございます。

王 府興 オウ フキョウ (高3)



8月1日、私たちは空路名古屋に到着し、岐阜県総合文祭に参加しました。三ヶ月の扇舞の練習を経て、ついに大会を迎えました。会場は人が多く、各学校にもそれぞれの特色があります。緊張した雰囲気の中で演技を終えましたが、いい感じです。これまでの努力は無駄ではありません。是非、いつも楽しい旅してください。



黄 昀曦 コウ インギ (高3)

全国高等学校総合文化祭に参加するのは今回で2回目ですが、高校生活最後の文化祭でもあります。舞台準備の始まりから、最後の舞台発表まで、忘れられない思い出がたくさんできました。詩舞に挑戦するのは初めてだったので、初めての詩舞ということで、最初は「本当に私たちにできるのかな?」と思いましたが、最終的には「やりました」となります。

このステージの成功は、すべての先生方の助けと励ましなしには成し得なませんでした。高校生活最後のステージということもあり、悔いの残らないよう全員が全力を尽くした!そして、このような日本文化を体験する機会を与えてくださった先生方に感謝しています。

! 詩吟と詩舞の完璧な連携で、舞台は成功裏に幕を閉じた!

! 大学に入っても、高知とNIPPONクラブを応援しています!

いつまでも。ありがとうございます。



盛 珠 セイシュ (高3)

初めて岐阜大会の稽古に参加した時は、とても心配であった記憶があります。日本の詩舞を一生懸命体得しました。みんなも毎回の訓練の中で真剣に練習して、すべての動作を覚えるのは、大会での演技のためでした。そして先生の細心な指導の下で、動作の細部も、多くのチームの演技を見れて、とても良かったです。私たちの勝気を奮い立たせてくれました。服装の上からも、化粧の上からも先生が細心の準備をしていて、本当に舞台に立っている時は、緊張感が襲ってきましたが、この数ヶ月の準備のためには、必ずすべての動作をして、結び目をして、

お礼を言うに、緊張感が落ち着いてきました。終わってから先生方が、私たちの演技がとても良かったと言った時は、この数ヶ月の稽古が合って、準備と先生方や学校のサポートが、良い成績を収めたように感じます。

張 昕桐 チョウキントウ (高2)



大会までの三ヶ月間、私たちは毎週木曜日に詩吟と踊りを別々に練習した。全員が日本の伝統文化に触れるのは初めてでしたが、真剣に一生懸命練習しました日本の伝統文化を学び経験と自信を深める機会を与えてくれた学校にとっても感謝しています。

私たちにとっては練習を肯定してくれるものであり、練習への意欲や動機付けにもなっています学校の代表として出場できたことを光栄に思い、とても興奮しやる気が出ましたこのコンクールは私たちに幅広い場を提供し自信を高かめてくれました。

先生方の専門的なご指導とチームメンバーの努力によって私たちが望む結果を達成できることを願っています



範 羽妍 ハンウケン (高2)

おこの夏休みに岐阜大会に参加できて光栄です。今回の大会で得たものは、活動を通じて、個人の総合技術、動作表現能力、自信心を大幅に向上させることができます。準備とパフォーマンスの過程で、絶えず練習と調整を行い、自分を公の場でより自由に表現することがわかりました。

詩舞は、集団詩詠やダンスなど、チームワークを必要とすることが多いです。

共通の目標の下で、チームメンバーはお互いに協力し、共に努力する必要があります。このような経験はチームの結束力と協力精神を高めるのに役立つと思います。ナレーターを通して、日本の伝統文化を知ることができ、とても嬉しかったです。

学校及び先生方各位に、学友の今回の試合の中での指導と助けていただき、感謝しています。私達のチームが、理想的な成績を取ることを望みます。

苗 紀青 ビョウキセイ (高3)



今年8月初旬、我が日本クラブは熱意を持って団体を結成して、岐阜県の全国高等学校総合文化祭に参加しました。大会では、日本の伝統的な詩と踊りを見事に披露し、全国各地から来た学生たちに、日本文化の独特な魅力を披露しました。同時に、私たちは積極的に他の学校の生徒と交流し、日本の伝統文化に対する理解と感悟を共有し、多くの貴重な経験と友情を得ました。

今回の文化大会のために、私たちは長時間の丁寧な準備とリハーサルを行いました。

皆が一丸となって努力し、多くの困難を克服し、細部まで完璧になるように努力しています。結局、私たちの努力が報われ、公演は円満に成功し、観客から高い評価を得ました。

今回の全国大会は岐阜で開催され、この都市は活力と文化底蘊に満ちていました。その日の夜、学校の先生はわざわざ私たちに伝統的なイタリア料理を味わせてもらいました。その美味しい料理は、私たちに後味が尽きません。また、先生は私たちに記念品を買うのに、十分な時間を与えてくれました。みんなは興味津々で自分の好きなものを選んで、いい思い出を残しました。

今回のイベントに参加できて、とても光栄で嬉しいです。今回の総文祭は私に多くの見識を増やし、視野を広げました。私は文化交流の重要性を深く実感しました。それは異なる地域間の相互理解と友情を促進することができます。私は今回の経験を心に留めて、引き続き一生懸命勉強し、日本の伝統文化を継承し、文化交流の促進に自分の力で貢献します。

楊 天燦 ヨウテンシャク (高3)



8月3日の朝、私たち日本クラブは興味津々でグループを組んで空港に向かいました。

今回の目的地は岐阜で、みんなは今年の全国文化大会に参加することを期待していました。今回の総文祭で優れたパフォーマンスを発揮するために、私たちは日本の伝統的な詩とダンスを丁寧に準備し、そのために長時間の熱心なリハーサルを行いました。

到着当日、私たちは、日本全国のそれぞれの高校の生徒と、日本の伝統文化に関する交流を積極的に展開し、そこから大きな恩恵を受けました。

夜、先生たちは私たちが岐阜の大通りや路地を散歩さしてくださいました。この都市の独特な魅力を感じました。先生たちは、私たちに美味しいイタリア料理を味わって下さり、その後ホテルに戻って休んで、翌日の演技のために元気を蓄えました。

翌日の朝早く、私たちは早めに用意した衣装に着替えて、元気に会場に行ってリハーサルと出番を待ちました。会場内は人山人海で、賑やかで、今回のイベントに参加する学校は非常に多いです。私たちの学校は、午後まで列に並んでから演技を始めたが、みんなは少しも怠らず、結局演技は大成功し、先生たちと楽しく一緒に写真を撮りました。学校に戻ってから一晩休んで、翌日帰国の飛行機に乗りました。今回の経験は忘れられないもので、私たちに多くの貴重な経験と思い出を与えてくれました。



楊 哲昊 ヨウ テツコウ (高3)

この夏休みに、ぎふ高等学校総合文化祭に参加できて光栄です。詩吟・詩舞は、集団詩詠とダンスなどで、チームワークが大切でした。大会前の3ヶ月間、私たちは毎日詩詠を練習しました。全員が日本の伝統文化に初めて触れましたが、とても真面目に練習しました。先生の監督と指導に感謝します。今回の大会で自信が高まり、私たちの高校生活と日本文化に対する更なる理解も豊かになりました。最後に、今回の大会での学校の先生方とクラスメートの指導とご協力に感謝します。



劉 予驥 リュウ ヨジョウ (高3)

今回、私は学校の代表として2回目の総文祭に参加しました。高校3年生の私には、最後の学年で学校を代表して参加しました。去年と違って、今回の詩吟はやるべきことが多く、詠唱の詩は昨年よりもっと難しかった。舞台上で異常が発生しないようにするために、私たちは先生の指導の下で、一生懸命に熱心に練習するだけでなく、寮に戻っても時々復習し、試合が近づく数日間には原稿を手放さずするようにしました。先生たちは苦勞をして文句を言わず、辛抱強く私たちの歌の間違いを指摘し、丁寧に修正してくれました。先生の指導がなければ、私たちは絶対に今のところまでできなかったと言えます。今回も何人かの新しいクラスメートが私たちのチームに加わりました。みんなの協力は暗黙の了解で、誰も足を引っ張ったことはありませんでした。

リハーサルは、とても順調に進行しました。舞台上、私は緊張していましたが、長時間の練習は、重要な瞬間にも言葉を忘れず、皆さんと順調に公演を終えました。今回の演技は、私にとって大きな利益だけでなく、忘れられない思い出にもなります。



コムンソク (高3)

彼から、今回、感想文の提出がないが、昨年の総文祭大会に参加しており、感想文には、しっかりした文章で感想を綴っていました。彼は最初の自己紹介で、先生方に日本文化を深く知りたいために詩吟部に入ったと話しました。昨年の総文祭に参加して、名古屋経由の飛行機の旅は楽しい思い出になったそうです。遠くに行く機会がなく、この大会に参加していろいろの経験をして楽しかったと書いていました。彼は、今回も多くの思い出を残したと思います。韓国から一人の生徒であり、2年間よく頑張りました。

中国語が飛び交う仲間達のなかで寡黙でしたが、吟詠の稽古を休むこともなく、しっかりと行っていました。日本語は、日本人と変わらなく上手でした。空手部に入っており、立ち姿勢がきれいでした。いつも立ち姿勢は、他の生徒の模範となっていました。これからの精進を期待しています。

引率教員：黒竹俊介先生、徳弘明寿香先生の報告

今年の全国総合文化祭は岐阜県で行われました。吟詠剣詩舞部門は水に恵まれた自然豊かな瑞穂市で行われました。今大会のタイトル通り、水面煌めく清流の国、岐阜県で発表することができたこと、生徒たちにとっても良い経験、思い出になったことと思います。

本校は6回連続での出場となり、今回は詩吟と詩舞に挑戦致しました。日々の練習からリハーサル、本番と詩吟をご指導いただいた梶田先生、詩舞をご指導いただいた大日本水心流虎嘯館の田中靈凰先生のグループの皆様をはじめ、多くの先生方にご協力いただきました。さらに今年も現地サポートとして、寄本校長、寄本光希先生が現地での全面バックアップ体制で待機していただき、無事に本番を迎えることができました。

日々の練習を含め、ここまで鵬翔流吟友会の大野先生、中西先生、さらに今回は剣詩舞との演技に向けて、大日本水心流虎嘯館の踊りの先生方の熱心なお稽古をしてくださり、生徒にとってとても有意義な経験、思い出になることができました。普段の学校生活では味わうことのない貴重な経験ができたこと、日本に留学してきて、詩吟、舞踊といった素晴らしい日本文化に触れることができたこと、こういった経験が生徒たちにとって将来に繋がる、とても有意義な留学経験になったこと、深く感謝申し上げます。

来年の全国大会は四国香川と聞いております。さらに精進して努力してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

鵬翔流吟友会：風雅を楽しむ秋の集い

10月6日に高知市南部福祉センターにおいて“秋に集い”が開催された。高校3年生の多くは進学・受験期に入っておりクラブ活動から離れた。“集い”には、女子2年生の4名と男子生徒1年生の参加であった。吟詠は短い稽古期間で、漢詩：石川丈山の「富士山」と和歌：本居宣長「晴れてよし」を吟詠した。



舞台上に立つ左から：ナレーター 範羽妍(ハンウケン)、鄭皓文(チョウハオウエン)、曾羽嘉(ソウウカ)、張昕桐(チョウキントウ)

高知県総合文化祭

2024年11月2日に高知カルポートのホールにて、午後1時より、高知県総合文化祭が開催された郷土芸能部の「和太鼓のプログラム」のなかで、漢詩、石川丈山作：富士山、和歌、本居宣長作：晴れてよしを吟詠した。評価委員の先生から、日本語と中国語での朗読は良かった。吟詠は美しい声で、大変良かったと、お褒めの言葉をいただいた。



「富士山」を吟詠



梶田鵬翔先生・中西淑子先生と共に



梶田鵬翔先生、黒竹俊介先生、大野正夫先生と共に

かがわ総文祭 2025

全国高等学校総合文化祭香川県大会香川プレ大会



令和6年12月15日(日曜日)に、三木町文化プラザで開催された。参加校は香川県高等学校文化連盟 吟詠剣詩舞部門合同チームで、構成吟「讃岐の風景 伝説(いいつつたえ)の里」徳島県高等学校文化連盟 吟詠剣詩舞部会は、構成吟「渭山城 ～阿波の殿様 蜂須賀公～」。

高知県からは、明德義塾高等学校の和歌「晴れてよし」本居宣長と合吟「富士山」石川丈山であった。ロゴマークは、かがわ総文祭の吟詠・詩部門。



リハーサルでの吟詠稽古



富士山を背景に、4人による吟詠

かがわ全国高等学校総合文化祭・プレ大会に同行して

中西 鵬翔鶯(淑子)

『讃岐に咲くは才の花たち』と題して12月15日、香川県、徳島県と高知県から、高等学校が集まり、プレ大会が行われた。プレ大会は準備大会のことで、毎年義務付けられているということです。プレ大会に出演した女子生徒は、鵬翔流吟友会流の秋の集い、高知県総合文化祭に参加した4名で立ち容姿だけでなく、音程も安定し、しっかりきれいな声で吟じることができたと思います。

昨年11月16日、高知カルポートで開催された高知県高等学校郷土芸能大会でも、審査の先生方から、素晴らしい評価を頂き、生徒達はプレ大会では余裕が感じられる程でした。

短期間での練習量では、奥深いところまでの表現は難しいものがあります。さらに研鑽を積んで、7月27日の総文祭の本番に備えて稽古をしてゆきましょう。

全国高等学校総合文化祭岐阜大会の詩舞を指導して

大日本水心流虎嘯館・田中 霊凰

初めに、この度ご縁をいただき、留学生への詩舞の指導という大変貴重な機会をいただきましたこと心より感謝申し上げます。通常はお稽古を始めて、着付けや足の運び、扇の扱い、振りの型などを約一年かけて練習し、舞台を迎えることが多いなか、約半年という短い期間で仕上げることになりました。

不安がなかったと言えは嘘になりますが、初回の練習で扇の扱いや身のこなしなど初心者とは思えない筋の良さ、習得の早さに大変驚き、不安は見事に払拭され、きっと素晴らしい舞台になると確信を持ちました。また、生徒たちの熱心に取り組む姿勢には感動しました。

分からない箇所や苦手な振りなどを積極的に質問してくれたことで、どこが伝わっていないのかを理解し対応できたことで、より充実した練習を重ねることができました。

そして、本番ではこれまでの頑張りが実を結び、想像以上の素晴らしい舞を披露してくれ胸が熱くなりました。今回の指導を通して得た多くの学びを今後につなげていきたいと思っております。ありがとうございました。



詩舞の稽古とリハーサル



明鵬吟詠興隆会OB, 石崎琢馬氏が大相撲関取。朝紅龍となる。



2018年2月石崎琢馬君らの卒業式にて

左より2番目石崎拓馬君。

2017年度は5月より各寮長

12名に、月1回、詩吟稽古を、夕食後6時より行った。

石崎君は日本体育大学では、全国大学相撲大会で2位。

卒業後高砂部屋に入門し、序二段から土俵に立ち一昨年、十両関取、朝紅龍と命名した。



先頭：前頭 朝紅龍(高砂部屋)
文藝春秋、2025年新年号グラビヤより

明鵬吟詠興隆会・会報 第6号発行 2025年1月
明德義塾中高等学校・鵬翔流吟友会 明鵬吟詠興隆会
事務局：大野正夫 〒781-1164 土佐市宇佐町井尻226-2
Tel 090-7145-2456 Email: moseaweed@gmail.com